

第15回 アマチュア・アンサンブルの日♪ 出演者決定!!

第1部 12:00開演

N&N (ヴァイオリン、ピアノ)
Klavier☆Melodica
 (鍵盤ハーモニカ、ピアノ)
 セラヴィイ (鍵盤ハーモニカ)
 アラウンド フィフティーズ
 (歌、ヴァイオリン、ピアノ)
Tomy Quartet
 (リコーダー、チェロ、ピアノ)
 不思議なトリオ
 (フルート、クラリネット、ピアノ)
 オカリナ・ラ・マッティナ
 (オカリナ、ピアノ)
 はっぴいオカリナ
 静岡コカリナアンサンブル
 (コカリナ、ピアノ)
Trio Pont de Cerisier
 (サクソフォン、フルート、ピアノ)

第2部 14:30開演 (予定)

パーシモンズ
 (サクソフォン三重奏)
 アンサンブル・デ・ラフェイム
 (サクソフォン四重奏)
 静岡県トロンボーン協会
Brass Ensemble La Mer
 (金管五重奏)
 篠笛アンサンブル/フラウタ
 (篠笛、打楽器、三味線、三線)
 ラリレロ
 (弦楽合奏)

第3部 16:00開演 (予定)

ミチコとヨーコ
 (フルート、ピッコロ)
 常盤トリオ
 (ヴァイオリン、チェロ)
 はんなりプラス
 (金管三重奏)
 アンサンブル・ヴァン・ルージュ
 (フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)
 プラス・アンダンテ静岡
 (金管五重奏)
 チェロアンサンブル・ひまわり
 リコーダーアンサンブル
 「つくつくぼうし」
 富士リコーダーオーケストラ

11/24 月・休 無料 (申込不要)
 12:00 開演 (11:30 開場) ※18:00 終演予定

AOIは世界的な音楽家だけでなく
 アマチュアにも聞かれたステージ！
 演奏することの喜びをみんなで楽しもう♪

AOIを持ち歩こう!

ついに登場! 開館30周年記念 静岡音楽館AOI オリジナルグッズ

静岡音楽館AOIは、今年度で開館30周年。この節目を機に、オリジナルグッズが誕生しました。
 音楽とともに歩む日々に、そっと寄り添うアイテムたち。ぜひ、あなたのお気に入りを見つけてください。

静岡音楽館AOI 7階インフォメーションにて販売中!

- ※数量限定ではありませんが、人気のデザインは品切れとなる場合がございます。
- ※デザイン・仕様は変更になる場合がございます。
- ※価格は税込です。



♪缶バッジ 各200円
 ピンクとブルーに、偉大な作曲家のポートレート。バッグや小物に、クラシックのスパイスを。



♪ふせん 各300円
 気軽に使える! ちょっと大胆な巨匠モチーフ。音楽ファンにさりげなく響く“使える”一品です。



♪エコバッグ 500円
 シンプルで、サブバッグとして持ち運びにもぴったり! 公演プログラムやチラシのお持ち帰りにぜひ。



♪AOI マスキングテープ 400円
 音符とAOIロゴモチーフがさりげなく踊る限定デザイン! 日常に、音楽の彩りをそっと添えてみませんか?

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2025年度をもって退会をご希望の方は、2026年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員 (2025年9月末現在) 50名

- (株)アオイテレック ●(株)ジェイアール東海ホテルズ
- (株)SBSプロモーション ホテルアソシア静岡
- かわした歯科クリニック ●(株)タミヤ
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2025-26

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛  せい いん 静岡信用金庫

協 賛  アイワホールディングス

 studio FORUM HOUSE & SHOP DESIGN

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
 皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ※価格は税込です。
- ※都合により内容を変更する場合があります。
- ※お客様の都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
- ※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- ※未就学児はご入場いただけません。(一部公演を除く)
- ※託児サービスはございません。

開場時の諸注意

- ※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
- ※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
- ※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



月曜日休館 (ただし祝日開館、翌平日休館) 9:00~21:30開館
 〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9
 お 問 合 せ

054-251-2200

静岡音楽館AOI 検索



AOI 通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
 SEP. 2025 No.119

秋号

特集 静岡音楽館 AOI 開館30周年②

静岡音楽館AOI

企画会議委員からのメッセージ

開館30周年記念式典レポート

桐畑奈央 (リコーダー)
 福田麻子 (ヴァイオリン)

ランチタイム・コンサート

「静岡の名手たち」 「東京音楽コンクール」

ジョイント・コンサート

インタビュー 前田妃奈 (ヴァイオリン)

前田妃奈 ヴァイオリン・リサイタル

いにしえの楽器たち

伶楽 ー雅楽の復元楽器ー

茨祐靖と伶楽舎 ～古譜の訳譜・復曲と古代復元楽器の演奏～

どこでも AOI

村治佳織

アウトリーチ・コンサート レポート!

第15回 アマチュア・アンサンブルの日♪ 出演者決定!!

ついに登場! 開館30周年記念

静岡音楽館AOIオリジナルグッズのご案内

特集 静岡音楽館AOI 開館30周年②

2025年夏号の30周年記念特集①に続き、第2弾として、AOIの企画会議委員の皆さまから寄せられたメッセージをお届けします。これまでの歩みを振り返りながら、未来への期待や思いを感じていただければ幸いです。

静岡音楽館AOI 企画会議委員からのメッセージ

開館からの10年は間宮芳生さん、その後の20年は野平一郎さんのもと、毎年、の企画会議で10企画程度を提案し、その中から約30公演が厳選され、AOIのステージで芸術監督プロデュースとして実現しました。雅楽、声明、邦楽など日本の伝統音楽を中心に民俗芸能や、沖縄の琉球芸能、韓国の民族音楽で構成した静岡のオリジナルプログラムを市民の皆さんとともに楽しむことができた30年でした。



photo by M.TSUNOI

田村博巳 (演出家)

開館30周年おめでとうございます！

野平芸術監督のもと、企画会議委員として運営に関わせていただき、会議での議論や他の委員の企画提案から多くのことを学びました。出演した公演の中では、ベートーヴェン交響曲チクルス、ストラヴィンスキー三大バレエ、オペラ《ナクソス島のアリアドネ》などが、特に印象に残っています。貴重な機会をいただいたことに感謝。いつまでも全国から注目されるホールであり続けますように。



© RYOICHI ARATANI

沼尻竜典 (指揮者)

静岡音楽館AOIの開館30周年、誠におめでとうございます。

開館当時、静岡市に暮らしていた私は、本格的なクラシック音楽専用のコンサートホールの登場に歓喜し、その素晴らしい音響を誇らしく感じたものでした。光栄にも、間宮芳生前芸術監督のもと、1999～2004年に市民企画会議委員を、その後、東京に居を移してから野平一郎 現芸術監督のご指名により2005年から今日までの長きに亘り企画会議委員を務めさせていただきました。その間、数々のギター演奏会に関わり、忘れたい多くの思い出が生まれました。

これも、ひとえに音楽ホール運営に関わるすべてのスタッフ、学芸員の皆様のおかげと心から感謝する次第です。

ここに、静岡音楽館AOIのさらなる御発展をお祈り申し上げます。



© Takanori Ishii

福田進一 (ギタリスト)

AOI30周年、おめでとうございます！

いつも魅力的な企画と公演で、音楽ファンを楽しませてくださり本当にありがとうございます。そんな素敵なおホールに関わらせていただけていることを、音楽家としてとても嬉しく光栄に思っています。

これからも一緒にできることを願っています！



© Yuji Ueno

上野耕平 (サクソフォン奏者)

開館30周年おめでとうございます。

そして、このすばらしいホールで積み重ねてきた音の歴史と響きあいながら、ますますAOIらしい、すてきなコンサートがこれからも繰り広げられていく未来にも、心よりお祝い申し上げます。



幸田浩子 (ソプラノ歌手)

静岡音楽館AOI 開館30周年、誠におめでとうございます。

ご出演の音楽家の皆さまや、ご関係各位、そして、地元静岡の音楽を愛するみなさまのご尽力の賜物と心よりお喜び申し上げます。私は歌舞伎の世界で囃子 (打楽器) を担当しております。三十数年演奏しておりますが、まだAOIでの演奏はご縁がなく、今回の企画会議委員がきっかけで演奏させていただくことを楽しみにしております。

ご功績に敬意を表すとともに、今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。



田中傳次郎 (歌舞伎囃子方)

開館30周年、おめでとうございます。

開館に至るまでのお話やその後の企画会議での思い出話を折に触れて現芸術監督でおられる野平先生から伺っております。先生の思いの深さを実感いたします。お客様、演奏家の方々、運営していく方々、すべての人にとってこの音楽館が居心地の良い場所として長きに亘り静岡の地で存在し続けようとお祈りいたします。



© Saito Kiyotaka

村治佳織 (ギタリスト)

レポート 静岡音楽館AOI 開館30周年記念式典

2025年5月10日 (土)、静岡音楽館AOIで開館30周年記念式典が開催された。1995年の開館から30年という節目を迎えた本式典には、これまでAOIを支えてきた関係者や市民など約70名が出席し、あたたかな祝福の空気に包まれた。

式典の冒頭では、難波喬司静岡市長が登場。AOIを支えてきた多くの人々への感謝を述べたのち、「駅前という等地に音楽専用ホールを建てた先人の英断に、深い敬意を表したい」と語り、AOIが市民にとってかけがえのない文化拠点であることを改めて強調した。また、AOIがこれまでコンサートシリーズやアウトリーチ活動を通じて地域の音楽文化への関心を高め、若手音楽家の育成にも貢献してきたことを評価した。

続いて登壇した野平一郎芸術監督は、はじめに、昨年末に逝去した初代芸術監督 間宮芳生氏への追悼の意を表した。そして、自身のAOIでの30年間の歩みを振り返り、設立当初から企画会議委員として関わり、演奏家として、芸術監督としてホールと共に歩んできた経験をもとに、「ホールとは、時代の声を聴く場所である」「私たち演奏家はホールに育てられた。音楽家と聴衆、さらには地域そのものを豊かにしてきた」と語った。そして今後のAOIに求められるものとして、「世界とのネットワークの構築」と「地域に根ざした聴衆の育成」を挙げ、新たな芸術監督へのバトンを意識しながら、次の世代へ思いを託した。

式典の中盤では、AOIのこれまでの歩みを紹介するスライド映像を上映。建設当時の様子から記憶に残る公演、アウトリーチ、教育プログラム、ワークショップなど、さまざまな活動の記録が紹介され、来場者は懐かしさとともに30年の歩みを追体験した。



▲AOI・レジデンス・クワルテット

締めくくりには、AOIの開館と同時に結成され、活動30年目を迎える専属弦楽四重奏団AOI・レジデンス・クワルテットによる記念演奏が行われた。演奏されたのは、J.ハイドン作曲《弦楽四重奏曲第81番 ト長調》より第1、2楽章。2026年1月17日のラスト公演でも披露される予定の曲目を、ひと足早く楽しめる特別なひとときとなった。今回はホールではなくロビーでの演奏というイレギュラーな形式だったが、この空間特有の響きを巧みに活かした緻密で豊かなアンサンブルが展開され、30年の歩みを象徴するような印象深い演奏となった。

コロナ禍を経て、音楽をWebで楽しむ人が増えた今も、AOIは単なる「鑑賞の場」にとどまらず、「育成の場」「出会いの場」として、新たな感動を生み出し続けている。30年という節目を迎え、これまでの歩みの価値をあらためて見つめ直し、未来への第一歩を踏み出す。静岡の音楽文化を育む場としての決意を新たにした記念式典は、過去と現在、そして未来を繋ぐ深い時間となった。

山本れいな (静岡音楽館AOI 学芸員)



▲会場の後方には、30年分の公演チラシ・プログラムノートや広報誌を展示 ※しばらくの間、7階ロビー 自販機コーナーでご覧いただけます。

◀野平一郎芸術監督の挨拶

10月4日(土)「静岡の名手たち」「東京音楽コンクール入賞者」ジョイント・コンサート
出演者のお二人にお話しを伺いました。

桐畑奈央
(リコーダー)

第25回「静岡の名手たち」
オーディション合格者



リコーダーを始めたきっかけは、またその道のプロになるために、どのような過程で勉強をされたのでしょうか？
始まりは多くの皆さんと同じく小学校3年生の音楽の授業で出会いました。その頃からリコーダーでのアンサンブルの機会をたくさん持つことができ、小学校4年生から高校2年生までリコーダーコンテストなどに出場し人前で演奏することの楽しさを知りました。高校生の時に受けたレッスンをきっかけに音大のリコーダー科に興味を持ち、東京藝術大学古楽科リコーダー専攻に進学、その後、イタリアのミラノ市立音楽院古楽科リコーダー専攻の修士課程で学びました。現在は様々な編成によるアンサンブルを複数主宰、所属しており、色々演奏することで日々学び得ることがたくさんあります。

「静岡の名手たち」オーディションやコンサートでの思い出がありましたら教えてください。
チェンバロを使わせていただけるオーディションは国内ではほとんど無く、貴重な機会だと思い応募しました。オーディション時は無観客^(※)での開催でしたが、合格者コンサートではお客さまの前で演奏することができ、AOIのホールに響く音を楽しみながら演奏することができました。コレツリのソナタに自作の装飾を付けて演奏したのも思い出に残っています。
※オーディション受験当時の2021年はコロナ禍であったため、無観客で実施した。

今回の演奏曲についての聴きどころや選曲の理由など教えてください。
今回のプログラムは様々な時代の作品を幅広く選びました。チェンバロの通奏低音付きの曲を後期ルネサンス、初期バロック、後期バロックから一曲ずつ選び、楽器もそれぞれの時代に合ったものを持ち替えて演奏する予定です。また、音響の素晴らしいAOIのホールでリコーダーのみの音を響かせてみたい、お客さまにも聴いていただきたいと思い、ファン・エイクの《笛の楽園》より独奏曲を一曲演奏いたします。

静岡の音楽を学ぶ若い方々へ、メッセージやアドバイスがありましたらお願いいたします。
音楽に関わらず日常の中で出会う新しい発見や感動は自分の音楽表現につながっていくと思いますので、興味のある様々なことに挑戦してみるといいと思います。演奏は自身が楽しむことで、その喜びが聴く人にも伝わります。音楽を学べる環境や、支えてくれる人たちへの感謝を忘れずに、人と比べすぎず、自分の歩みを大切に頑張ってください。

福田麻子
(ヴァイオリン)

第19回 東京音楽コンクール
弦楽部門第1位



ヴァイオリンを始めたきっかけは何でしょうか？
私には姉と兄がいて、2人ともヴァイオリンを習っていました。そのレッスンにいつもついて行っていたので、私もやりたいと母に頼んだそうです。最初は姉達のように楽器を背負って出かけるのが嬉しく、レッスンが終わると先生が飴をくださるのが楽しみでした。

東京音楽コンクールでの思い出がありましたら教えてください。
本選の舞台で初めてチャイコフスキーの協奏曲をオーケストラと共演できたことが強く印象に残っています。今まで努力してきた自分の力を余すこと無く発揮したいという強い思いもあり、気合いを入れて赤いドレスで本選の舞台に臨んだことも、忘れられない思い出です。

今回の演奏曲についての聴きどころや選曲の理由など教えてください。
サン＝サーンスの《ヴァイオリン・ソナタ第1番》は、私の大好きな曲の1つで、構成力が素晴らしいだけでなく、叙情的な魅力にも溢れた名曲です。会場にお越しいただいた皆様にサン＝サーンスの魅力をお届けしたく、この曲を選びました。サン＝サーンスをメインのプログラムに置いた今回の演奏会は、他にもフランス人の作曲家をお届けしたいと思い、もう1曲はラヴェルを選びました。

静岡の音楽を学ぶ若い方々へ、メッセージやアドバイスがありましたらお願いいたします。
演奏を続けていくということは、決して楽しいことばかりではありませんが、様々なことを1つ1つ乗り越えた時に、芸術に携わる喜びを深く感じることができるのではないかと思います。日々精進しています。皆さんも、日々の音楽との生活の中で、喜びを感じて頂けたら嬉しいです。

ありがとうございました！
静岡、東京とそれぞれの地で活躍し続ける
お二人の今後の活躍に注目です。

出演・曲目
桐畑奈央 (リコーダー) (第25回「静岡の名手たち」オーディション合格者)
鎌田菜帆 (チェンバロ)
M.ウツチェリーニ：ソナタ第9番 二短調 op.5-9
J.ファン・エイク：《笛の楽園》より ファンタジアとエコー
L.ルツツアスキ：マドリガーレ〈優しきそ風〉
G.Ph.テレマン：《忠実な音楽の師》より リコーダー・ソナタ へ短調 TWV41:f1

福田麻子 (ヴァイオリン) (第19回東京音楽コンクール弦楽部門第1位)
望月晶 (ピアノ)
M.ラヴェル：ノヴァナ形式の小品
C.サン＝サーンス：ヴァイオリン・ソナタ第1番 二短調 op.75

インタビュー 前田妃奈^(ヴァイオリン)

10月19日(日)にご出演いただく、若手ヴァイオリニスト前田妃奈さんにお話しを伺いました。共演は、エリザベート王妃国際音楽コンクール第2位入賞のピアニスト久末航さんです。大注目のお二人が静岡音楽館AOIで極上のアンサンブルをお届けします。

今回初めて静岡音楽館AOIで演奏いただきます。プログラムはオール・ベートーヴェンということで大変たのしみしております。今回のプログラムの聴きどころを教えてくださいませんか？

最近のマイブームが、作曲家、国などひとつの大きなテーマでのリサイタルです。これまでに、グリーグやブラームス、フレンチプログラムでのリサイタルをさせていただきました。ベートーヴェンのリサイタルもいつかやってみたいなと思いつつ、ベートーヴェンはやはりとても難しいので私にできるかなと思っていました。

ですが、今回この静岡音楽館AOIという素晴らしいホールで、そして長らくドイツにいらっしやる久末航さんと演奏させていただけることになり、いいチャンスだ！と思いました！ベートーヴェンは、歳を重ねるごとにどんどん作風が変化していきます。最後はもう、今の時代に聴いても前衛的で、神の領域です。特に後期の弦楽四重奏曲なんて、勉強しても勉強しても分からないことだらけです。今回は、2番、5番、10番のソナタを演奏します。1つの楽章だけ抜粋で勉強したことがあるものもありますが、ほぼほぼ全て、はじめてです。

2番のまだモーツァルトの作風すら感じさせるような軽快なソナタから、みんな大好き5番の《春》、そしてベートーヴェン自身の成熟が感じられる10番への移り変わりは、それはそれは興味深いです。

以前、前田さんのコンサートを聴きに伺った際に裸足で演奏されていたことに驚きました！どうして裸足で演奏されるようになったのでしょうか？
裸足はいいですよー。とても良いです。

なぜなら、ステージの床がひんやりしていて気持ちいいのを、体感できるからです！というのは半分冗談(でも半分本当)で、長らく演奏中の手汗に困っていたのが発端です。ベビーパウダーをつけてみたり、本番前に



© T. Tairadate

冷たい水で手を冷やしてからステージに出てみたり、いろいろ試してみましたがうまくいかないなあと思っていた時に、CDの録音がありました。その際、靴の音が入ってしまうからということで裸足になって演奏したところ、録音は真夏だったのに、手汗が全然気にならないではありませんか！どうやら、裸足で足の裏をステージの床で冷やし続けると、手のひらも連動して汗をかきにくくなるようでした。その直後の演奏会で試しに裸足で出してみると、靴を履いている時よりはるかに手汗が気にならず、なんなら体幹まで安定して弾けたんです!!!! ハマりました。

現在ご使用されているヴァイオリンについて教えてくださいませんか？
今年の6月から、サントリー芸術財団さんから貸与していただいた1727年製のストラディヴァリウスを演奏しています。特徴は、すこしだけサイズが小ぶりなところかなあと思っています。背の低く手の小さい私にはぴったりです。とてもあたたかい音色のする楽器で、いつもそばでニコニコ見守ってくれそうな、そんな気がします。楽器は、どんな共演者よりも、先生よりも、誰よりも近くで演奏者を導いてくれる存在です。私も彼のように朗らかであたたかい存在になれば良いなあ、と思います。

今回ピアニストの久末航さんと共演いただきます。前田さんにとって久末さんはどんなピアニストでしょうか？

久末さんは、2023年の秋ごろの初共演以降、グリーグのヴァイオリン・ソナタと一緒に録音したり、ベルリンで人生ゲームをしたり、音楽でもそれ以外でも遊んでいたみたいです(笑)。演奏が素晴らしいことはもはや世界の常識なくらいの事項ですが、それ以上に特筆すべき点は、優しさとユーモアと頭のキレを兼ね備えた非常にオモロイ方ということです。最初にリハーサルでお会いしたときは、半袖半ズボンにリュックという立ちでのご登場でした。内心(夏休みの少年やん!!!)と思いましたが、演奏をはじめたら非常に誠実で、(ほえーすっげえー)と思ったことを覚えています。でもそんなことは演奏をお聴きいただければすぐに分かること。

私は、久末さんがいかにオモロイ人間かということがはやく世に知れ渡ってほしいなあ、切に願っています(笑)。あとワンちゃんに似てる。(この内容を久末さんにお話ししたら、「ちょっと待って、小学生コーデバラされるの恥ずい笑笑、でも別にバレてもいいよ〜笑、これからもうちょっと夏の服装に気をつける…犬に似てるのは否めない、」とのことでした。)

最後に、ご来場のお客様へメッセージをお願いいたします。
ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタは、難しい外国の小説を読んでいるような、そんな作品です。私にとってもチャレンジングなプログラムなので今からドキドキしていますが、2番から始まり、10番を終えた瞬間が今からとても楽しみです。私の挑戦を、まっすぐで優しい久末さんのピアノを、そしてベートーヴェンの傑作たちを、ぜひ会場で一緒に体感しに来てください！
静岡のみなさまにお会いできることを、楽しみにしております！

静岡📍室内楽フェスティバル2025

前田妃奈
ヴァイオリン・リサイタル

10/19日

22歳以下
¥1,000

15:00 開演 (14:30 開場)
指定席 ¥ 4,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥ 3,600)

出 演
前田妃奈 (ヴァイオリン)
久末航 (ピアノ)

曲 目
L.v.ベートーヴェン：
ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 op.12-2
第5番《春》へ長調 op.24
第10番 ト長調 op.96

いにしえの楽器たち

伶楽 —雅楽の復元楽器—

小林旬 (静岡音楽館AOI学芸員)

12月13日(土)の「芝祐靖と伶楽舎」のコンサートでは、雅楽で失われた復元楽器が演奏されます。どんな音色を奏でるのか、ぜひお楽しみください。

奈良時代に中国大陸から、または朝鮮半島から日本に伝わってきた雅楽は(ベトナムから伝わった林邑楽(りんゆうがく)という雅楽もある)、平安時代に建築や美術、文学、書などと同じように国風化、つまり、より日本らしい音楽になってゆく。それとともに、舞を伴う舞楽は、大陸系の唐楽による左舞は朱の装束、半島系の高麗楽による右舞は緑の装束を用いるなど、雅楽は様式化、形式化、制度化された。そんななか、日本の感覚にそぐわなく感じられたのだろうか、低音が省略されたり、似たような音色が省略されたり、失われていった響きもあった。そんな楽器たちが、「シルクロードの終着駅」ともいえる奈良の東大寺正倉院にひっそりと残されている。それらは1000年以上も沈黙したままだったが、1975年頃から国立劇場ほかによって復元が始まり、その響きが現代に蘇ってきた。

大型の笙である【竽(う)】は、管の長さが倍、もっとも長くて1mほどあり、1オクターヴ低い音を奏で、幽玄な響きに力強さも併せもつ。箏(ひちりき)にも、半オクターヴほど低い【大箏(おおひちりき)】という楽器があった(正倉院には残っていない)。「排簫」は、アンデスのサンポーニャ(〈コンドルは飛んでいく〉で知られる)に似て、長短の管を順に並べた楽器で、ギリシャ神話の時代からあるタイプの楽器。W.A.モーツァルトのオペラ《魔笛》でパパゲーノが吹く笛(魔法の笛ではない)もそうしたひとつ。正倉院にはルーマニアあたりから伝わってきたのだろう。【篳篥(くご)】は紀元前2,500年頃のエジプトまたはアッシリアが起源とみられる、23絃、L字型の美しい豎琴。妙なる音に聴く人は耽溺したと伝えられる。力学的に不可思議な構造で、復元に10年もの歳月が費やされた。組紐で音程を調整するのが難しく、ペグ(糸巻)に改良された。【阮咸(げんかん)】はリュート属の有棹撥弦楽器。4絃、14フレット。円く薄めの胴で、楽琵琶より少し小さい。正倉院には紫檀に螺鈿を施した聖武天皇の楽器が残されている。正倉院に残されている9枚の金属片は打楽器の音板とみられ、ほかの音程を揃って【方響(ほうきょう)】という打楽器が復元された。6世紀、中国の南北朝に生まれたとみられる。

国風化以前の雅楽は、こんな楽器のかずかずによって、平安からいまに続く雅楽よりも、コスモポリタニズムに彩られた世界音楽だったといえるだろう。中国、朝鮮からはるか中東の響きをも感じさせる、いにしえの雅楽が、むしろ現代において多様性を聴かせるのは斬新だ。



芝祐靖



げんかん
阮咸



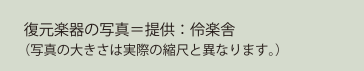
ほうきょう
方響



くご
篳篥



う
竽



はいししょう
排簫

ひちりき
箏

おおひちりき
大箏

復元楽器の写真＝提供：伶楽舎
(写真の大きさは実際の縮尺と異なります。)



静岡浅間神社廿日会祭雅児舞楽〈ずじゃんこ舞〉



©伶楽舎

芝祐靖と伶楽舎

～古譜の訳譜・復曲と古代復元楽器の演奏～

12/13(土) 22歳以下 ¥1,000

14:00 開演 (13:30 開場)
指定席 ¥3,500 (静岡音楽館倶楽部会員¥3,150)

演奏 伶楽舎 (音楽監督：宮田まゆみ)

曲目 芝祐靖(訳譜・復曲)：天平琵琶譜《番假楽》
新撰楽譜《曹娘禪説》
(角調調子)《序》《破》《禪説》《風踏》※正倉院楽器と奈良時代の音階による復元

芝祐靖(構成)：二管の龍笛のための《朱雀門梁震》(盤涉調《萬秋楽》より)

芝祐靖(訳譜・復曲)：遠楽大曲《団乱旋一具》
(巻越調調子)《序一帖》《二帖》《入破》《風踏》《急声》※現在の唐楽様式の復元

雅楽から
生まれた
言葉の
豆辞典

一日頃の言葉のなかに
響いている雅楽—

【ろれつ(呂律)が回らない】

雅楽の音階である呂(りよ=ドレミソラ)と律(りつ=ドレファソラ)がごっちゃになってしまうかのよう、病気なのか吞みすぎなのか、朦朧として、言っていることがよく判らなくなってしまうこと。

【やたら】

雅楽の、2拍子と3拍子の複合拍子である八多羅拍子の演奏が難しくて混乱しがちなことから、めちゃくちゃなさまをいう。「やたらめったら」「むやみやたら」などと用いられる。「八多良」「夜多羅」とも。「矢鱈」は当字。

【塩梅】

もともとは梅を漬けるときの塩加減のことなのだろうが、雅楽では、箏のポルタメント(なめらかに音程を推移する奏法)のこと(えんばい)。また、その抑揚のことを「めりはり」という。

【打合せ】

雅楽で、管絃と合奏する前にまず打楽器(太鼓、鉦鼓、鞆鼓)でテンポを合わせておくこと。

【六調子】

雅楽の6つの調(呂=巻越調、太食調、双調、律=平調、黄鐘調、盤涉調)のこと。熊本の米焼酎で知られる。そのラベルは芹沢銈介のデザイン。

【二の舞を踏む】

舞を伴う雅楽、舞楽の1曲、海の神の(安摩の舞)に続き、その答舞として、咲面の翁(翁)と、腫面の媼(婆)がそれを真似て舞うが、うまくできずに滑稽になってしまうのが(二の舞)。インドからベトナムを経由して日本にもたらされたものかもしれない。静岡浅間神社廿日会祭雅児舞では〈ずじゃんこ舞〉ともいう。

どこでも AOI

村治佳織 アウトリーチ・コンサート レポート！

2025年6月18日(水)、19日(木)に「村治佳織 アウトリーチ・コンサート」を開催しました。アウトリーチ・コンサートとは、山間部地域や病院など、コンサートホールではないところへ、演奏者が赴いて行うコンサートで、AOIでは「どこでもAOI」と銘打って2005年から毎年行っています。これまでに野平一郎芸術監督や「静岡の名手たち」オーディションの合格者たちが市内の学校を回って演奏してきました。今回は、日本を代表するギタリストであり、当館の企画会議委員の村治佳織さんからの希望で、静岡市内の中学校・高校から広く希望校を募集し、そのうちの2校、清水第三中学校と静岡西高等学校にて開催しました。

6月18日@清水第三中学校

この日の最高気温は30℃超え、会場の体育館も熱気で溢れていました。村治さんは会場入りして間もなくリハーサルを開始、入念なサウンドチェックが行われました。当初はステージ上で演奏する予定でしたが、生徒の皆さんのより近くで演奏するためにステージ下に変更、グッと近くで演奏を聴けることになりました。

——準備が整い、本番。生徒の皆さんも先生方も待ちわびる中、村治さんが登場すると割れんばかりの拍手と共に、演奏が始まります。村治さん作曲の〈バガモヨ〉、東日本大震災をきっかけに作られた〈花は咲く〉、異国情緒あふれる〈アルハンブラの思い出〉など、お話を挟みながら全8曲を披露されました。身体を揺らしながら聴いている子、ギターの手元に注目している子など皆さん深く聴き入っていました。質問コーナーでは、村治さんへさまざまな質問が飛び交いました。ギタリストとして心がけていること、プライベートに関する質問など、村治さんは一つ一つの質問にしっかりと向き合って真摯にお答えされる姿がとても印象的でした。



6月19日@静岡西高等学校

この日も快晴、気温は30℃近く。会場の体育館は熱を帯びており、窓を全開にして舞台設営作業からスタート。リハーサルに間に合うよう急ピッチで準備を進めます。「体育館」と一口に言っても、ステージが小さな体育館、建物の2階に位置する体育館、天井が高い広大な体育館…など形はさまざま。会場に合わせた舞台設営、音響チェックを進めます。

渡邊亜沙(静岡音楽館AOI学芸員)



——午後1時、村治さんが到着。すぐにリハーサルが始まり、入念なサウンドチェックと演奏位置の試行錯誤が始まります。この日はステージ下で演奏予定でしたが、生徒の皆さんからは演奏する様子が見えにくくなることがわかり、急遽ステージ上と下の両方で演奏することに。この他にも生徒の皆さんが座る椅子の位置をまるっと変更したりと、ベストな音環境を整えていき、ここでしか聴けないコンサートを形作っていきます。

——さあ、本番。会場に集まった約300名の期待が高まる中、演奏が始まります。最初はJ.S.バッハ〈主よ、人の望の喜びよ〉が穏やかに心温まる音色で奏でられ、映画「禁じられた遊び」のテーマ〈愛のロマンス〉、情熱的でクールな〈タンゴ・アン・スカイ〉など、前日は異なるプログラムを全8曲披露いただきました。トレモロ奏法の高度なテクニックを利かせたF.タレガ作曲〈アルハンブラの思い出〉の演奏が始まると、皆さん驚いた様子で聴いていました。中盤、サプライズでギター体験が行われ、生徒の皆さんの他に先生も加わって会場を沸かせました。

終演後、吹奏楽部と軽音楽部の皆さんと交流会を開催しました。ギターの技術的な質問から練習方法、あのパッセージはどうやって弾いているの?など音楽部ならではの具体的な質問が次々と挙がりました。村治さんはギターを弾きながら詳しく解説され、目の前で繰り広げられるテクニックに生徒の皆さんは「すごい!!」と感嘆の声を上げていました。

両日に亘り、大盛況のうちに終えることができました。関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

AOIでは今後もアウトリーチ・コンサートを実施していきます。次の会場はどこでしょうか?次回のレポートに乞うご期待!